

科目名称：	こども特論（子ども家庭福祉：幼児教育学科）	
担当者名：	中村 明成	
区分	授業形態	単位数
専門教育科目	講義	2
授業の目的・テーマ		
<p>今、「子ども」を取り巻く環境は、社会・家族形態の変化によって、より多様化しています。その中で、いわゆる『子どもの権利擁護』（「子ども」を一人の「ひと」として大切にすること）が「子ども」とかかわる私たち大人・保育者に、何より求められています。「児童家庭福祉」とその周辺の課題を体系的にまとめながら、現在そして将来の「子ども」について、共に考察していきます。また、課外活動にも参加し、実際の「子どもの姿」を実感することも大切にしていきます。</p>		
授業の達成目標・到達目標		
<p>現代の子どもの実情を把握し、保育者は、どうかかわっていけばいいのかを理解する。子どもをありのままに受け止め、どんな子どもも認められるような資質を養成する。これからの学びで「子ども像」から「子ども観」へとつなげていく。</p>		

ビジネス実務学科	ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針）	重点項目
DP (1)	建学の精神と設立の理念を基に、ビジネス社会で求められる基礎知識を修め、地域社会を理解するとともに多様な文化に対応できる幅広い教養が身につけている。	
DP (2)	医療事務や観光業を含むビジネスの専門知識や技能を身につけ、各種資格を取得し、ビジネスワーカーとして他者と協調・協働することのできる実践力を身につけている。	
DP (3)	多様なビジネス社会に対応できるよう豊かな人間性を養い、人との関わりの中で自己の考えを的確に表現するとともに、他者の意見を尊重し良好な信頼関係を築いていくことができる。	○
DP (4)	学生一人ひとりが、ゼミナールを通して、ビジネス現場における様々な課題に取り組み解決する学修経験を積み重ねることで、その場の状況に応じた活用力を身につけている。	

評価方法/ディプロマポリシー	定期試験	クイズ 小テスト	提出課題 (レポート含む)	その他	合計
ビジネスDP (1)					0
ビジネスDP (2)					0
ビジネスDP (3)	60		40		100
ビジネスDP (4)					0
					100

実務経験のある教員の担当	担当教員の実務経験の内容（内容・経験年数を記載）	
あり	《内容1》 障害者支援施設支援員 社会福祉士ケアマネー	《経験年数1》 11年10か月
	《内容2》	《経験年数2》
	《内容3》	《経験年数3》
	《内容4》	《経験年数4》

備考

到達目標ルーブリック	すばらしい	とてもよい	よい	要努力
授業内レポート	授業の内容をよく理解し、自分の意見を持ち、表現できる	授業の内容を理解し、考えられる	授業の内容を理解している	授業の内容が理解できていない
参考となるVTR教材	内容や補足の説明もよく理解できている	内容については理解できている	テーマは何か理解できている	内容が理解できていない
参考プリント	事前に読んでいて、内容がよく理解できている	授業内での説明が理解できている	参考にして読んでいる	読んでいない
まとめ	子どもの主体性や人権を十分理解している	子どもの主体性・人権の大切さがわかっている	子どもの主体性・人権について、意識をしている	子どもの主体性・人権を理解していない

授業の内容・計画	事前事後学修の内容	事前事後学修時間(分)
第1回 「子ども」が生きている現代社会の課題・世界の現状 (子どもについてのディスカッション)	教科書を読んでおく	40分
第2回 「少子高齢化」問題と家庭・家族形態の変化と現状	少子化についてのプリントを読んでおく	30分
第3回 児童家庭福祉の理念と歴史の変遷、及び制度・児童福祉法を中心とする法体系	教科書チャプター3を読んでおく	30分
第4回 「子ども」が生きている現代社会の課題・世界の現状の権利擁護の歴史の変遷と「子どもの権利条約」	「子どもの権利条約」のプリントの読み込み	30分
第5回 児童家庭福祉サービスの仕組みとその内容	教科書チャプター4を読んでおく	30分
第6回 「児童虐待」「DV」の現状と理解	教科書チャプター7を読んでおく	30分
第7回 「児童虐待」「DV」の理解と対応(資料VTRについて考えをまとめ、グループで話し合う)	「児童虐待」についてのプリントの読み込み	30分
第8回 「保育」の多様性と保育士の社会的役割	教科書チャプター5を読んでおく	30分
第9回 子育て支援サービスの内容と実際	教科書チャプター5を読んでおく	30分
第10回 しょうがいのある子どもの保育・福祉サービスの実際	教科書チャプター9を読んでおく	40分
第11回 「療育」「母子保健」などの他領域との連携のあり方	教科書チャプター9を読んでおく	40分
第12回 近年の施策と児童福祉法改正・次世代育成支援の意	教科書チャプター4を読んでおく	30分
第13回 児童家庭福祉の将来像(特に最近の子どもの貧困問題を中心に)	教科書チャプター6を読んでおく	30分
第14回 保育者としての児童家庭福祉のあり方	「保育」についてのプリントを読んでおく	30分
第15回 講義のまとめと課題学習	授業全体を振り返りまとめておく	50分

事後学修時間については、受講するにあたっての最低限の目安を明記したが、単位取得のためには原則として授業時間と事前事後学修を含め学則第17条の2で規定された学修時間が必要である。
また、事前事後学修としては、教科書の該当するチャプターを読み込む。事前に配付したプリントを学習する。

成績評価の方法・基準

定期試験は、60%で評価する。その他の評価配分は、以下のとおりである。
毎回授業でレポートを作成する内容40%

課題に対するフィードバック

授業で毎回作成するレポートは、添削し評価し返却する。

教科書・参考書

みらい×子どもの福祉ボックス 「児童家庭福祉」 喜多一憲 監修 (株)みらい